

殺菌剤

協友

トップジン® M水和剤

チオファネートメチル…………… 70.0%

種類名/チオファネートメチル水和剤
 農林水産省登録/第23108号
 毒性/普通物*
 有効年限/4年
 包装/250g×60、500g×20

特 長

- 本剤は多くの作物、広範囲な病害に登録を有しております。
- 予防効果と治療効果をかねそなえています。

適用病害と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
み か ん	そうか病	30倍	8ℓ	4～6月	本剤 5回 チオファネートメチル剤 8回 〔塗布は3回、散布、 空中散布及び無人 航空機散布は合計 5回〕	空中散布
	灰色かび病	1000～ 1500倍				
	そうか病					
	貯蔵病害(黒斑病)	2000倍				
か ん き つ (みかんを除く)	貯蔵病害 (軸腐病 青かび病 緑かび病)	2000～ 3000倍	200～ 700ℓ	収穫前日まで	本剤 5回 チオファネートメチル剤 8回 〔塗布は3回、散布及び 無人航空機散布は合計 5回〕	散布
	貯蔵病害(黒斑病)	2000倍				
り ん ご	黒星病 うどんこ病 黒点病 褐斑病	1000～ 2000倍	—	休眠期～ 生育期	本剤 6回 チオファネートメチル剤 10回 〔塗布は3回、灌注は 1回、散布は6回〕	灌注
	腐らん病 モニリア病(実腐れ) 輪紋病 すす点病 すす斑病	1000～ 1500倍				
	白紋羽病	500～ 1000倍				
な し	黒星病 うどんこ病	1000～ 2000倍	200～ 700ℓ	収穫前日まで	本剤 6回 チオファネートメチル剤 11回 〔塗布は3回、休眠期の 散布は1回、灌注は1回、 生育期の散布は6回〕	散布
	腐らん病	1000倍				
	輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1000～ 1500倍				
	白紋羽病	500～ 1000倍	—	休眠期	本剤 1回 チオファネートメチル剤 11回 〔塗布は3回、休眠期の 散布は1回、灌注は1回、 生育期の散布は6回〕	灌注

(つづく)

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
マルメロ かりん	腐らん病	1000～ 1500倍	200～ 700ℓ	収穫前日まで	本剤 6回 チオファネートメチル剤 9回 〔塗布は3回、散布は 6回〕	散布	
	うどんこ病 炭そ病 落葉病 黒星落葉病 すす点病				本剤 6回 チオファネートメチル剤 10回 〔塗布は3回、休眠期 の散布は1回、生育 期の散布は6回〕		
	灰星病 黒星病 ホモブシス腐敗病				本剤 4回 チオファネートメチル剤 7回 〔散布は4回、塗布は 3回〕		
もも	枝折病 うどんこ病	1000倍		収穫3日前 まで	本剤 4回 チオファネートメチル剤 7回 〔散布は4回、塗布は 3回〕		
	くり	実炭そ病			1000～ 1500倍		本剤 4回 チオファネートメチル剤 7回 〔散布は4回、塗布は 3回〕
ぶどう	灰色かび病 褐斑病 うどんこ病 黒とう病	1000～ 2000倍		収穫45日前 まで	本剤 1回 チオファネートメチル剤 5回 〔塗布は3回、休眠期 の散布は1回、生育 期の散布は1回〕		
	晩腐病 芽枯病	1000倍			収穫14日前 まで		本剤 3回 チオファネートメチル剤 6回 〔塗布は3回、散布は 3回〕
	苦腐病	1000～ 1500倍					本剤 3回 チオファネートメチル剤 7回 〔塗布は3回、散布は 3回、灌注は1回〕
おうとう	灰星病 せん孔病 幼果菌核病	1000～ 1500倍		収穫後 〔7月上旬～ 9月上旬〕	本剤 1回 チオファネートメチル剤 7回 〔塗布は3回、散布は 3回、灌注は1回〕		灌注
びわ	ごま色斑点病	800倍			本剤 3回 チオファネートメチル剤 7回 〔塗布は3回、散布は 3回、灌注は1回〕		
	灰斑病	800～ 1000倍					
小粒核果類	すす斑病(うめ)	1000倍	200～ 700ℓ	収穫21日前 まで	本剤 3回 チオファネートメチル剤 6回 すももは6回 〔塗布は3回、休眠期 の散布は1回、生育 期の散布は3回〕	散布	
	灰星病 環紋葉枯病 葉炭そ病 黒星病 黒粒枝枯病	1000～ 1500倍			その他の小粒核果類は6回 〔塗布は3回、散布は 3回〕		
	いちじく	黒葉枯病		1000倍	収穫7日前 まで		本剤 5回 チオファネートメチル剤 14回 〔塗布は3回、灌注は 6回、散布は5回〕
黒かび病 そうか病		1000～ 1500倍	本剤 6回 チオファネートメチル剤 14回 〔塗布は3回、灌注は 6回、散布は5回〕				
株枯病		500倍		1～10ℓ /株	収穫前日まで	本剤 6回 チオファネートメチル剤 14回 〔塗布は3回、灌注は 6回、散布は5回〕	灌注

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
キウイフルーツ	果実軟腐病	1000倍	200～ 700 ℓ	収穫前日まで	本剤 5回 チオファネートメチル剤 8回 〔塗布は3回、散布は5回〕	散布
あけび (果実)	うどんこ病			収穫7日前 まで	本剤 3回 チオファネートメチル剤 3回	
オリーブ	梢枯病			収穫30日前 まで	本剤 2回 チオファネートメチル剤 5回 〔塗布は3回、散布は2回〕	
りんご(苗木) なし(苗木)	白紋羽病	500倍	—	植付前	本剤 1回 チオファネートメチル剤 6回	10分間 根部浸漬
もも(苗木)					本剤 1回 チオファネートメチル剤 7回 〔散布は6回〕	
桑(苗木)					本剤 1回 チオファネートメチル剤 3回	
水 稲	ばか苗病	300～ 500倍	—	は種前 〔浸種前又は 浸種後〕	本剤 1回 チオファネートメチル剤 3回 〔種子への処理は1回〕	6～24時間 種子浸漬
		30倍			10分間 種子浸漬	
小 麦	雪腐病	1000～ 2500倍	60～ 150 ℓ	根雪前	本剤 3回 〔出穂期以降は2回〕 チオファネートメチル剤 4回	散布
	雪腐大粒菌核病	250～ 500倍	25 ℓ			
	赤かび病	250倍	—	収穫14日前 まで	〔種子への処理は1回〕 散布及び無人航空 機散布は合計3回、 出穂期以降は2回	
	うどんこ病	1000～ 1500倍				
	うどんこ病	1000～ 2000倍				
	眼紋病	1000倍				
麦 類 (小麦を除く)	雪腐病	1000～ 2500倍	60～ 150 ℓ	根雪前	本剤 3回 〔出穂期以降は1回〕 チオファネートメチル剤 3回	
	赤かび病	1000～ 1500倍	—			収穫30日前 まで
	うどんこ病	1000～ 2000倍				
	眼紋病	1000倍				
だ い す	紫斑病	種子重量 の0.5%	—	は種前	本剤 1回 チオファネートメチル剤 4回 〔種子への処理は1回〕	粉衣
	菌核病	700～ 1500倍	100～ 300 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 4回 チオファネートメチル剤 4回 〔種子への処理は1回〕	散布
あ す き	輪紋病 炭そ病	700～ 1000倍			本剤 4回 チオファネートメチル剤 5回 〔種子への処理は1回〕 〔は種後は4回〕	

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
いんげんまめ	角斑病 菌核病 苗立枯病	700～ 1000倍	100～ 300 ℓ	収穫7日前 まで	本剤 4回 チオファネートメチル剤 5回 〔種子への処理は1回、 は種後は4回〕	散布
	炭そ病	700～ 1500倍				
えんどうまめ	褐斑病 褐斑病	1500～ 2000倍		収穫前日まで	本剤 3回 チオファネートメチル剤 4回 〔種子への処理は1回、 は種後は3回〕	
実 えんどう さやえんどう	灰色かび病	2000倍				
えだまめ	菌核病			収穫7日前 まで	本剤 4回 チオファネートメチル剤 5回 〔種子への処理は1回、 は種後は4回〕	
らっかせい	褐斑病 黒波病 灰色かび病	1500～ 2000倍				
	そうか病 茎腐病	1500倍				
やまのいも	葉波病 炭そ病	800倍		収穫45日前 まで	本剤 5回 チオファネートメチル剤 5回	
やまのいも (むかご)						
ばれいしょ	菌核病	1000～ 1500倍		収穫7日前 まで	本剤 5回 チオファネートメチル剤 5回 〔種いもへの処理は1回〕	
かんしょ	基腐病	200～ 500倍	—	貯蔵前～ 伏せ込み前	本剤 1回 チオファネートメチル剤 1回	30分間 採苗用 種いも浸漬
	黒斑病			植付前		20～30分間 種いも又は 苗茎部浸漬
さといも さといも(葉柄)						20～30分間 種いも浸漬
キャベツ	根朽病 株腐病	1000倍	100～ 300 ℓ	収穫3日前 まで	本剤 2回 チオファネートメチル剤 3回 〔種子への処理は1回、 は種後は2回〕	散布
	菌核病	1000～ 1500倍				
はくさい	白斑病 炭そ病	1500倍		収穫7日前 まで		
		1500～ 2000倍				
カリフラワー	菌核病	2000倍		収穫前日まで		
ブロッコリー	根朽病			収穫14日前 まで		
非結球レタス	菌核病 灰色かび病	1500～ 2000倍		収穫21日前 まで		
せり	葉枯病	1500倍		収穫14日前 まで		
食用べにばな (花)	炭そ病					
食用ぎく	褐斑病			収穫28日前 まで		
セルリー	斑点病		収穫60日前 まで			

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法		
み つ ば	菌核病	2000倍	100～ 300 ℓ	収穫14日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	本剤 2回 チオファネートメチル剤 3回 〔種子への処理は1回、 は種後は2回〕	散布		
みしまさいこ	炭そ病	1000倍		収穫30日前まで				
食 用 ゆ り	鱗茎さび症	50倍	—	植付前	本剤 1回 チオファネートメチル剤 1回	球根瞬間 浸漬		
レ タ ス	菌核病 灰色かび病	1500～ 2000倍	100～ 300 ℓ	収穫7日前 まで	本剤 2回 チオファネートメチル剤 4回 〔種子への処理は1回、 灌注は1回、散布は 2回〕	散布		
	すそ枯病	1500倍			1.5 ℓ /m ²		収穫45日前 まで	本剤 1回 チオファネートメチル剤 4回 〔種子への処理は1回、 灌注は1回、散布は 2回〕
に ら	白斑葉枯病 乾腐病		1000倍	3 ℓ /m ²		収穫21日前 まで		本剤 1回 チオファネートメチル剤 2回 〔種子への処理は1回、 は種後は1回〕
メ ロ ン	つる枯病 陥没病 菌核病	1500～ 2000倍	100～ 300 ℓ	収穫前日まで	本剤 3回 チオファネートメチル剤 5回 〔種子への処理は1回、 塗布は1回、散布は 3回〕	散布		
か ぼ ち ゃ	白斑病	1000倍						
す い か	炭そ病 菌核病	1500～ 2000倍						
き ゆ う り	菌核病 黒星病 炭そ病 うどんこ病 灰色かび病 つる枯病							
う り 類 (漬物用)	炭そ病 うどんこ病 灰色かび病 つる枯病							
に が う り	炭そ病 斑点病							
ト マ ト ミニトマト	葉かび病 灰色かび病 菌核病							
な す	黒枯病 灰色かび病 菌核病							
アスパラガス	茎枯病 立枯病				1000倍		収穫開始 7日前まで	本剤 5回 チオファネートメチル剤 6回 〔種子への処理は1回、 は種後は5回〕
て ん さい	褐斑病				2000～ 3000倍		収穫7日前 まで	本剤 5回 チオファネートメチル剤 5回

(つづく)

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
ピーマン	黒枯病 炭そ病	4000～ 6000倍	100～ 300ℓ	収穫前日まで	本剤 チオファネートメチル剤 3回 4回	散布
ズッキーニ	うどんこ病	1500倍				
オクラ	葉すす病					
いちご	うどんこ病	1000倍	—	収穫開始 21日前まで	本剤 チオファネートメチル剤 〔種子への処理は1回、 は種後は3回〕	5分間 株浸漬
		300～ 500倍	3ℓ/m ²	株冷蔵栽培 の株冷蔵前		1時間 苗根部浸漬
	萎黄病			—		仮植前
ねぎ	萎凋病 黒腐菌核病 小菌核病 小菌核腐敗病	1000倍	100～ 300ℓ	収穫7日前 まで	本剤 チオファネートメチル剤 3回 5回	散布
	萎凋病 黒腐菌核病 小菌核腐敗病	250倍	チェーン ポット1冊 (30×60cm、 土壌量約5ℓ) 当り 0.5～1ℓ	定植直前	本剤 チオファネートメチル剤 1回 5回 〔種子への処理は1回、 苗根部浸漬及び苗床灌 注は合計1回、散布及び 株元散布は合計3回〕	苗床灌注
	萎凋病 小菌核腐敗病	20倍	—			3分間 苗根部浸漬
200倍		—	30分間 苗根部浸漬			
たまねぎ	小菌核病	500～ 1000倍	100～ 300ℓ	収穫前日まで	本剤 6回 〔但し、定植後は5回〕 チオファネートメチル剤 7回 〔種子への処理は1回、 苗根部浸漬は1回、無人 航空機散布は3回、散布 は5回〕	散布
	灰色腐敗病	500倍	—	定植直前		5分間 苗根部浸漬
たらのき	芽枯症	2000倍	0.1～0.3 ℓ/m ²	伏せ込み後 萌芽前 但し、収穫 21日前まで	本剤 チオファネートメチル剤 1回 3回 〔伏せ込み前は2回、 伏せ込み後は1回〕	駒木散布
	そうか病	1500倍	200～ 700ℓ	伏せ込み前 但し、収穫 60日前まで	本剤 チオファネートメチル剤 2回 3回 〔伏せ込み前は2回、 伏せ込み後は1回〕	散布
らっきょう	乾腐病	1000倍	700mℓ/m ²	収穫7日前 まで	本剤 3回 チオファネートメチル剤 3回	株元灌注
ししとう	黒枯病	10000倍	100～ 300ℓ	収穫前日まで	本剤 チオファネートメチル剤 3回 3回	散布
れんこん	褐斑病	1500倍				
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1000倍				

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
甘 草	株枯病	200倍	—	植付前	本剤 1回 チオファネートメチル剤 1回	30分間 苗浸漬	
しょうが	いもち病 白星病	1000倍	100～ 300ℓ	収穫7日前 まで	本剤 2回 チオファネートメチル剤 2回	散布	
なたね	菌核病			収穫21日前 まで	本剤 3回 〔開花後は2回〕 チオファネートメチル剤 3回		
	雪腐菌核病	根雪前	本剤 3回 〔開花後は2回〕				
茶	炭そ病 白星病 褐色円星病 輪斑病	1500～ 2000倍	200～ 400ℓ	摘採7日前 まで	本剤 1回 チオファネートメチル剤 1回		
	黒葉腐病	1500倍					
まめ科牧草	菌核病	2000倍	100～ 300ℓ	根雪前	本剤 2回 チオファネートメチル剤 2回		
いね科牧草	雪腐大粒菌核病						
ば ら	うどんこ病 黒星病	1500～ 2000倍		100～ 300ℓ	—		本剤 5回 チオファネートメチル剤 5回
シクラメン	灰色かび病						
ゆ り	葉枯病 茎腐病						
き く	褐斑病						
さくらそう	灰色かび病						
カーネーション	芽腐病						
けいとう	茎腐病 輪紋病						
ほおずき きんせんか	半身萎凋病						
りんどう	花腐菌核病	1500倍					
チューリップ	球根腐敗病	球根重量 の0.1%	—	植付前 又は 貯蔵前	本剤 1回 チオファネートメチル剤 5回	球根粉衣	
べにばな	炭そ病	1500倍	100～ 300ℓ	—	本剤 2回 チオファネートメチル剤 5回	散布	
観 賞 用 アスパラガス	茎枯病	500～ 1000倍					
花き類・観葉植物 (トルコギキョウ を除く)	菌核病	1500倍					本剤 5回 チオファネートメチル剤 5回
トルコギキョウ	斑点病						

(つづく)

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
樹木類	炭そ病	1000～ 2000倍	200～ 700ℓ	発病初期	本剤 5回 チオファネートメチル剤 5回	散布
	褐斑病(つつじ類) 幼果菌核病(さくら)	1000～ 1500倍				
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症 (シュードサーコスボラ菌) 紫かび病(かし) 黒点病(じんちょうげ) 褐斑病(ぼけ) マルゾニナ落葉病 (ポプラ) 枝枯病(いぬつけ) 赤枯病(すぎ)	1000倍				
たばこ (苗床)	腰折病	1000～ 2000倍	2ℓ/m ²	苗床期	本剤 2回 チオファネートメチル剤 2回	
	黒根病	1000倍				
桑	裏うどんこ病 汚葉病	1000～ 2000倍	100～ 300ℓ	—	本剤 3回 チオファネートメチル剤 3回	
	輪斑病	1000～ 1500倍				

常温煙霧法の適用病害と使用方法

作物名	適用場所	適用病害名	10a当り使用量		使用時期	総使用回数*	使用方法
			薬量	使用液量			
トマト	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	灰色かび病	100～200g	5ℓ	収穫前日 まで	本剤 5回 チオファネートメチル剤 6回 〔種子への処理は1回、 は種後は5回〕	常温煙霧

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌を生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合わせ、輪番で使用してください。
- かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、収穫前3週間以内(かんきつ(みかんを除く)の場合には収穫前2～3週間の間)に1回散布すると効果的です。
- 本剤をかんきつ(みかんを除く)の施設栽培には使用しないでください。
- りんごの腐らん病防除に対する本剤の使用は、生育期における病菌の感染侵入阻止を目的として散布するので、生育期の通年散布としてください。
- ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
- いちごの萎黄病防除に使用する場合には、下記の注意を守ってください。
 - ①萎黄病多発地では本剤の浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組み合わせで防除すると有効です。
 - ②本剤の灌注処理は土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので、注意してください。
 - ③萎黄病は、土壌温度の高い時(20℃以上)に発生しやすいので、本剤の灌注処理は地温の高い仮植時期に処理してください。
 - ④灌注処理の場合、土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もありますが、その後の生育や収量の影響は認められていません。

- いちごのうどんこ病防除において株浸漬する場合は、下記の注意を守ってください。
 - ①本剤による株浸漬処理は、株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するもので、うどんこ病の発生まん延時の防除とは異なるので注意してください。
 - ②浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかないように浸漬し、苗を薬液中で2～3回上下にゆすってください。
 - ③本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵してください。
 - ④冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理してください。
- いちごのうどんこ病防除において散布する場合は、葉および果実に汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
- いちじくに対して灌注処理する場合は、1ヶ月間隔で使用することが望ましいです。
- 水稻の種子消毒に使用する場合は、下記の注意を守ってください。
 - ①消毒後は水洗せずに浸種または種してください。
 - ②浸漬処理薬液の温度は、なるべく10℃以下はさけてください。
 - ③籾と浸漬処理薬液の容量比は1:1以上とし、種籾はサラン網などの目の粗い袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - ④低濃度(300～500倍)長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌してください。
 - ⑤本剤処理を行った種籾は少なくとも数時間は放置して、風乾後浸漬してください。また浸漬は停滯水中で行い、浴比は1:2とし、水の交換は原則として行わないでください。ただし、液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水してください。
 - ⑥薬剤処理した種子は、食糧、飼料に使用しないように注意してください。
- れんこんに使用する場合は、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 麦の雪腐病防除に使用する場合は、散布液量は10アール当り100ℓを標準としてください。なお、1回散布の場合には、なるべく根雪近くに行くと効果的です。
- 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度運動式地上液剤散布装置を使用してください。
- チューリップの球根粉衣は、植付前または貯蔵前に球根1kgに対し、本剤1gを均一に粉衣してください。
- 本剤を大型散布機で使用する場合には、各散布機種別の散布基準に従って実施してください。
- だいすの紫斑病に対しては落花後～若莢期に2～3回散布してください。
- だいすの紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組み合わせて使用してください。
- 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去した後、所定濃度の希釈液を1本当り成木では200～300ℓ、苗木では20～30ℓ灌注してください。
- かんしょ、さといもの種いも消毒後は水洗せずに薬液が乾いてから植え付け、薬剤処理した種いもは食糧、飼料に使用しないでください。
- アスパラガスの茎枯病の防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き、新しく萌芽した茎を対象としてください。
- カラーおよび花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- たばこの親床での処理は種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布してください。
- 本剤を使用した場合には、ペノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種籾への処理および塗布処理は除きます。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

【常温煙霧】

- 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定および使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

- 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉してください。できれば翌朝まで密閉してください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。

■混用・薬害

- ボルドー液との混用はさけてください。
- いちご萎黄病防除時に苗根部浸漬する場合は、浸漬時間が長く（所定時間以上）になると薬害（活着不良）を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守してください。
- いちじくに対して灌注処理する場合は、生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけてください。

■蚕 毒

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないでください。

■水産動植物への注意

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。



- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2025年3月7日現在の登録内容に基づいています。